

GLHSとは、評価について

■事業目的：豊かな感性と幅広い教養を身に付け社会に貢献する志を持つ、知識を基盤とする
これからのグローバル社会をリードする人材を育成する（平成22年3月教育委員会会議）

- 育成されるべき力
- ① 幅広い教養と高い専門性
 - ② 高い志（社会貢献）と豊かな人間性
 - ③ 英語運用能力

■評価項目

	大項目	小項目
各 学 校 独 自 の 取 組	I 確かな学力の向上を図る	・言語活用力 ・ICT活用力 ・読解力リテラシー、科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他（基礎学力の充実・学習習慣・自学自習の確立、ほか）
	II 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	・違いを認め共に生きる力 ・共感性、協調性 ・健康、体力 ・その他（人権尊重の涵養、自尊感情の育成、ほか）
	III 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	・進路実現 ・規範意識 ・高い志（こころざし） ・その他（高大連携の推進、ほか）
	IV 教員の指導力向上をめざす	・授業力向上 ・教材開発 ・その他（教員研修の充実、他府県の先進事例の研究、ほか）
共 通 の 取 組	V 総合的な学力の測定	★10校共通学力調査結果、センター試験の参加割合・結果
	VI 課題研究活動	★課題研究活動の成果 ～全国規模のコンクール・コンテスト実績～
	VII 英語運用能力	★英語運用能力の育成 ～TOEFLIBT等外部検定試験の実績～
	VIII 進学実績	★進学実績 ～大学進学者数等～

■ 評価

○各校独自の取組の評価（取組評価）

- ・大項目ごとに2～3の取組を計画。小項目は教育庁が示す項目を参考に設定
- ・取組指標、取組指標の目標値、成果指標、成果指標の目標値を予め設定
- 取組実績に基づき、各学校が自己評価（A・B・C 3段階評価）
- 評価審議会が大項目ごとに実績を評価（AA・A・B・C 4段階評価）

○共通の取組の評価（実績評価）

- ・教育委員会が示した小項目に基づき、各校が成果指標を設定
- 実績に基づき、各学校が自己評価（A・B・C 3段階評価）
- 評価審議会が大項目ごとに実績を評価（AAA・AA・A・B・C 5段階評価）

○毎年の総合評価

- 各校独自の取組の評価（大項目ごとの4段階評価）
- +
- 共通の取組の評価（大項目ごとの5段階評価）
- 総合評価（AAA・AA・A・B・C 5段階評価）

評価審議会

●外部評価委員（5名）で構成

- 北野 正雄 氏
京都大学 理事・副学長
- 菊地 栄治 氏
早稲田大学 教育・総合科学学術院教授
- 浅野 良一 氏
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科教授
- 石川 和秀 氏
外務省政府代表/特命全権大使（関西担当）
- 河内 幸枝 氏
マロニー株式会社 代表取締役社長

☆毎年の評価

- 評価審議会の開催
- 委員による学校視察
- 委員による校長ヒアリング
- ・各校独自の取組及び共通の取組を評価 ⇒ 評価結果公表

【参考】 指定のスケジュール（平成23年度～平成32年度）

